# 準高冷地で生産されたいちご無仮植苗の 山下げ時期と苗の大きさ

## 1. 試験のねらい

いちご栽培は期間が長く、多くの労力を要することから、苗の生産を委託し省力化を図るリレー栽培が増えてきている。本県では、比較的冷涼なため炭疽病回避や花芽分化促進効果のある準高冷地(藤原町三依・標高 670m)において苗の増殖が試験的に行われた。そこで準高冷地で生産されたいちごの無仮植苗が実用的であるかどうか、山下げ時期と苗質が生育及び収量に及ぼす影響について検討した。

#### 2. 試験方法

試験は平成9年度に実施し、供試品種はとちおとめを用いた。処理は山下げ時期を9月10日と9月19日、苗質は大苗(本葉数4~5枚)中苗(3~4枚)、小苗(2~3枚)を組み合わせた6処理とした。親株は4月22日に準高冷地(藤原町三依)へ定植し子苗を増殖した。本ぼへの定植は無仮植で、畝幅 110cm、株間 24cmの2条高畝へ山下げ後直ちに行った。施肥量は a 当り成分で窒素 2.0kg、リン酸3.0kg、カリ2.0kgとした。対照のポット育苗は7月15日に採苗仮植し、9月19日に定植した。保温は10月25日から開始した。

## 3. 試験結果および考察

- (1) 山下げ時の花芽の発育状況は、9月19日山下げ大苗及び中苗はほぼ肥厚期であったが、その他はほぼ未分化であった。ポット育苗はほぼ分化期であった。(表-1)
- (2) 定植後の活着はいずれの山下げ時期も小苗が遅く、葉柄長も小苗がほぼ全期間を通して小さく推移した。頂花房開花始期は、山下げ時期が早く、苗が大きいほど早い傾向であったがポット育苗に比べると  $4\sim11$ 日遅れた。 1 次腋花房の開花始期も、 9 月10日・大苗を除き  $7\sim23$ 日程度遅れる傾向であった。頂花房着花数は小苗が少ない傾向であった。また頂花房収穫始期は、早いもので12月中旬からであったが、いずれもポット育苗より  $7\sim14$ 日程度遅かった。(表-2)
- (3) 年内収量は、山下げ時期が早く、苗が大きいほど多収となり、9月10日・大苗はポット育苗と同程度の収量が得られた。総収量は、いずれもポット育苗と同等以上であり、苗が大きいほど多収となった。可販果数は苗が大きくなるほど多い傾向であった。(表-3)

# 4. 成果の要約

準高冷地(藤原町三依・標高670m)で増殖した無仮植苗は、山下げ時期が遅いと年内収量が少なくなり、また小苗では生育が劣り年内及び総収量とも減少することが明らかとなった。したがって、準高冷地の無仮植苗を利用した栽培では、山下げ時期を9月10日頃とし、本葉3~5枚の苗を用いることが望ましいと考えられた。

(担当者 栃木分場 畠山昭嗣)

表-1 山下げ時の苗の生育状況

処	処 理		葉身長	葉幅	葉柄長	クラウン径	苗重	花芽分化	
山下げ時期	苗の大きさ		(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(g)	状況	
	大苗	4.3	8.0	6.4	8.5	0.8	12.0	0.2	
9月10日	中苗	3.2	6.2	5.1	6.9	0.7	6.1	0.4	
	小苗	2.3	5.2	4.7	6.3	0.6	3.5	0.3	
	大苗	4.5	10.9	9.1	6.7	0.9	17.0	0.8	
9月19日	中苗	3.1	8.9	7.4	6.1	0.8	9.0	0.8	
	小苗	2.1	6.1	6.7	5.3	0.7	5.3	0.2	
ポット	ポット育苗		6.7	6.7	4.8	0.8	14.7	1.6	

注. 花芽分化状況 (未分化0、肥厚1、分化2)。ポット育苗は9月19日調査。

表-2 山下げ時期と苗質が生育、開花始期、着花数、収穫始期に及ぼす影響

	理	<b>葉柄長(cm)</b>			開花始期	(月/日)	着花数	着花数(花/株)		
山下げ時期	苗の大きさ	11/17	1/21	3/19	頂花房	腋花房	頂花房	腋花房	(月/日)	
9月10日	大苗 中苗 小苗	9. 5 10. 0 8. 4	10.6 8.6 7.6	9. 2 9. 1 8. 2	11/ 6 11/ 9 11/10	12/11 12/26 12/31	15. 6 16. 7 12. 3	14.5 16.7 15.5	12/15 12/15 12/17	
9月19日	大苗 中苗 小苗	8. 7 8. 9 9. 4	9. 0 8. 7 6. 9	9. 0 8. 6 7. 5	11/10 11/12 11/13	12/20 12/30 1/6	15.6 13.5 12.2	13.5 13.6 14.5	12/19 12/22 12/20	
ポット	育苗	8.1	8.0	8.1	11/ 2	12/13	14.0	14.9	12/ 8	

表-3 山下げ時期と苗質が収量、果数、1果重に及ぼす影響

処	処 理		8g以上の可販果収量(g/株)						可販		1果重
山下げ時期	苗の大きさ	12月	1月	2月	3月	4月	計	(果/株)	果数(果/株)	(%)	(g)
9月10日	大苗	134	123	116	129	221	722	61.1	43.3	29.1	16.7
	中苗	118	136	108	153	142	656	55.1	39.1	29.0	16.8
	小苗	77	121	90	170	131	588	45.2	33.4	26.1	17.6
9月19日	大苗	94	164	100	174	215	747	60.8	44.4	27.0	16.8
	中苗	79	142	78	161	188	647	54.1	37.9	29.9	17.1
	小苗	70	111	93	200	144	617	46.3	34.8	24.8	17.7
ポット育苗		135	88	107	111	153	594	48.3	34.6	28.4	17.2